

会報

第661号
2021年4月
札幌友の会

4月30日現在	会員数	663人
厚別	53	
新札幌	53	
平岡	41	
白石	60	
羊丘	49	
豊岡	49	
三軒	48	
中野	52	
円山	53	
山鼻	42	
山内	46	
内藤	54	
真木	8	
通	6	
3月末より		8人減

札幌友の会創立90周年

根元を強めて100年へ

総リーダー 北島 美地子

4月例会は、出席者267人(40%)という報告があり、新年度のスタートをこんなにも多くの会員と共有できた、共に歩む喜びを感じる事ができました。

小さい自分を乗り越えたいと思い、本当に「えいっ」という気持ちで受けました。知らないことが多い私ですが、どうぞよろしくお願いたします。

総リーダー選を振り返ると、まだまだ経験が少ないと、まだまだ経験が少ないと、も苦しいものでした。一度は断りましたが「そのままでもいい」「一緒に新しくなりたい」などの声が再度大きく届けられると、こんなに推されているのに応えようとしないうちに、娘達に、「やってみなければ分からないでしょう」といっても言っていることが、そのまま自分に返ってきて、

昨年、コロナ禍にあっても、オンラインで話し合いを続けたことや、つながり合おうとする方面リーダーや最寄リーダーの姿に触れ、友の会の皆の「小さな力を差し出そうとする姿」に改めて憧れを抱き、私もそうでありたいと思わせてもらいました。それこそが私と友の会を20年間つないできた根元だと気づきました。また、皆の姿は見えないところで芽を出そうと努力する健全な根であったのだと

今、仕事や家族の介護などで出られない人、気持ちに離れてきている人の中には、力を出せないことを気にしている人もいるかもしれません。いつかそうなりたいと思うこと、そこに憧れる気持ち、一緒に大事にしていきたいと思えます。私は同世代の有職会員にはいつも、「待ってるから。もう少ししたら一緒にできる時がく

今年、通読本「羽仁もと子選集」の中の「人生の朝の中に」に、「いつからでも新しくなることができる」という言葉が書かれていて、私の大好きな言葉の一つです。新年度の朝を迎えた今、この言葉は、私の視線を前というよりも上へ向けてくれています。視線の先には、これからの光が差し込んでくる、そう信じて皆と歩んでいきたいと思えます。

今年、創立90周年を迎えるその歴史は、私たちの今を支えてくれる強固な根元です。また、昨年度末の話

総リーダーってどんな人？



- 家族：私(50才) 夫(51才) 長女(大2) 次女(高3)
- 出身地：岩手県 奥州市
- 好きな食べ物：お寿司、焼肉
- 得意料理：家族は「中華おこわ」が好きみたいです。
- 苦手な家事：掃除、家計簿
- 夫はこんな人：会社員兼敏腕主夫。家事に対して要求度が高くなく、寛容。たくさん食べる。

るからやめないうで続けよう」と声かけしています。根元をもっと強いものにしたたいと願う今年度、皆にも「いてほしい」そう言い続けていきたいです。

今年、通読本「羽仁もと子選集」の中の「人生の朝の中に」に、「いつからでも新しくなることができる」という言葉が書かれていて、私の大好きな言葉の一つです。新年度の朝を迎えた今、この言葉は、私の視線を前というよりも上へ向けてくれています。視線の先には、これからの光が差し込んでくる、そう信じて皆と歩んでいきたいと思えます。

今年、創立90周年を迎えるその歴史は、私たちの今を支えてくれる強固な根元です。また、昨年度末の話

2021年度
札幌友の会のテーマ
・創立90周年
友の会の志をつないでいく
一人ひとりに
・どの年代も生き生きと
友との交わりを大切に

通読本
「人生の朝の中に」
この一冊で幅広く著作集に触れることができ、著作集がもっと身近になりますようにとの願いを込めました。

活動自粛について

総リーダー 北畠美地子

札幌市のコロナ感染は深刻な状況が続いています。

引き続き、札幌友の会は活動を自粛し、オンライン以外の集まりは5月14日(金)まで休止とします。

私達は社会へ働きかける団体という自負があるからこそ、社会からの行動自粛の呼びかけを無視できません。何よりも、会員の健康を守りたいという思いが強くなり、このような決断をしました。オンラインでも密を避けるために、「1拠点1人」をお守りください。

四月オンライン例会

4月15日(木) 司会阿波加(広報部リーダー) 讃美歌二七番 二九四番 読書「生活の隠れたる部分」 思想しつつ生活しつつ(上) 総リーダー

二〇二一年度 札幌友の会のテーマ 組織紹介

生活のテーマ 「今日からこれ実践します」宣言 く生ゴミ乾かしてみました 子どもと笑顔ですこせるように 一学期が始まります

「誰もが幸せに共に生きる社会」を願って 幼児生活団 生活部 生活部 生活部

「誰もが幸せに共に生きる社会」を願って 奉仕部

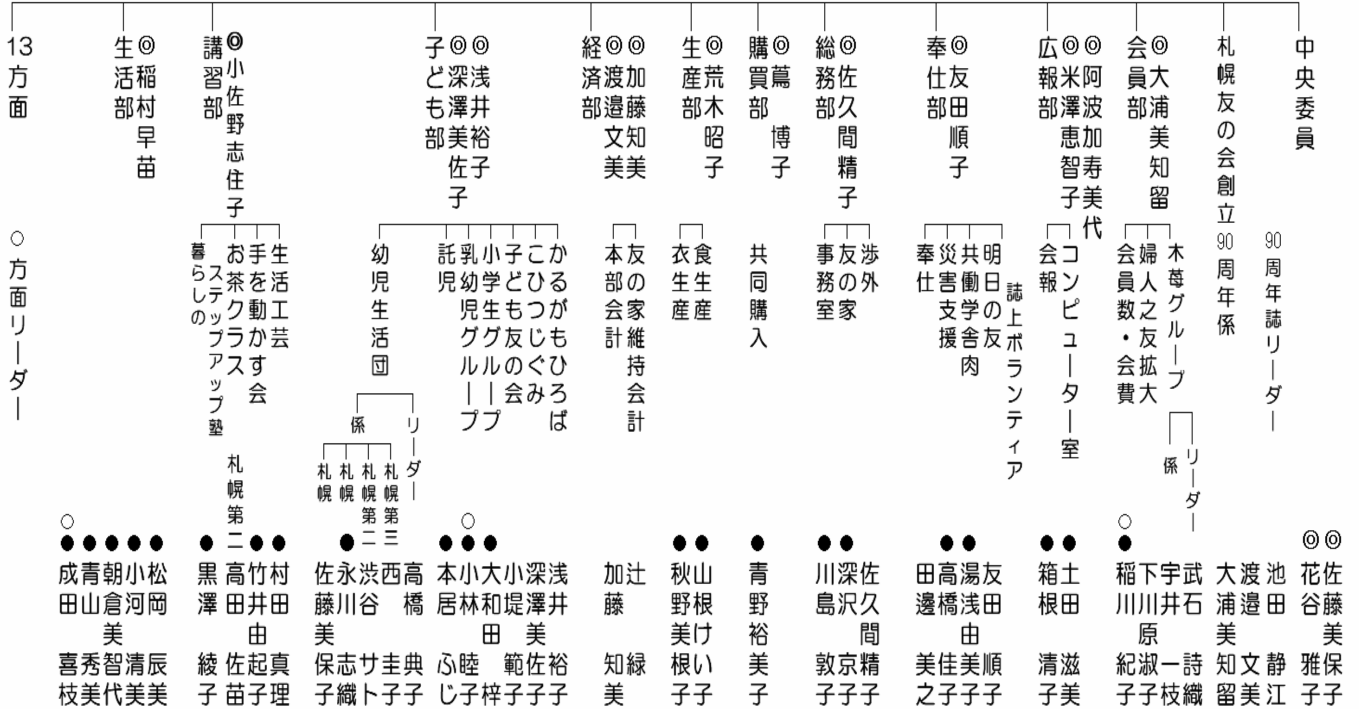
新入転入お客様紹介 実務報告 実務 真駒内方面・広報部 ピアノ 高崎(真駒内) 出席者 267名(40%)

今年のテーマ 「創立90周年 友の会の志をつないでいく一人ひとりに」 「どの年代も生き生きと 友との交わりを大切に」

2021年度 組織

総リーダー ◎北畠 美地子

◎部のリーダー会16名 ○委員会32名 ●係リーダー会38名



奉仕部

「誰もが幸せに共に生きる社会」を願って

奉仕部リーダー 友田 順子

今年度から奉仕部の組織を「震災支援」から「災害支援」に変え、毎年のようにおきる自然災害に広く支援をしていきます。今年度は東日本大震災から10年がたち、これからも忘れずに東北の人達に寄り添っていきたいと思います。講演会を開催し、現地のことを知り、私達にできる支援を続けていきたいです。昨年度は大震災後に札幌に避難してきた親子に、夏の保養で楽しく豊かな時間を過ごしてもらったことが出来ました。また、「ちいさいおうち」が、地域の子どもだけでなく大人達の心癒される大事な場として、活動が続けられるように支援しています。

今、社会ではコロナ禍をきっかけに、立場の弱い女性、若者達の中に働き先がなくなったりも多く心が痛みます。特に未来を担う子ども達も元気に育ってほしい、将来に希望を持ち、幸せを感じてほしいと願っています。「家庭は簡素に社会は豊富に」は羽仁先生が願われたことです。その実現のために、私達は隣人への愛を深め「誰もが幸せに共に生きる社会」を願って、これからも支援活動を広めていきたいです。支援先など皆さんと考えていきたいと思っています。

2020年度 震災支援報告 (2020年4月〜2021年3月) 寄付 元気塾夏の保養 50,000円 陸前高田子ども図書館 「ちいさいおうち」 100,000円

講習部

楽しい針仕事 オンライン講習会 Vol.1 "楽しい針仕事のために" ソーイングケース編 日時 5月26日(水) 10:30~11:30 講習料 無料 申込み切 5月18日(火) 申込み先 手を動かす会 竹井 まで

手を動かす会リーダー 竹井 由起子 ソーイングケースの中にどんなものが入っていますか。1回目の講習会では、針や糸などの道具のことをお話します。どんなことでも質問して下さい。

生活部 2021年度 生活のテーマ

1次代につながる地球のために

SDGs 始めよう 続けよう

共にめざす家計簿から適量の暮らし



婦人之友6月号に三角山方面 成田喜枝さんの「コロナ禍、食費を見直す」が掲載されます。

生活部リーダー 稲村 早苗
私達が暮らす地球は今、貧困・差別・気候変動など様々な問題を抱えています。特に地球環境の悪化は、繰り返し起こる自然災害からも感じます。

世界は、SDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、この問題に取り組んでいます。SDGsと聞くとは難しく感じますが、私達に出来ることは日々の暮らし方を見直すことではないでしょうか。友の会で学んだことと、SDGsの目標と重なることがたくさんあることがわかります。楽しみながら実践できたらと思います。それは全て家計簿の数字に直結しています。家計簿をつけて、持続可能な社会のためにどう暮らし、どう行動するかを90周年の今年、人の分まで食べない・着ない・使わない適量の暮らしを目指し一年にしましょう。

家計簿は3月までつけられましたか。困った時は身近な会員に相談すると解決できます。3ヵ月つけられると1年つけ通すことにつながります。滞っている人もまだ大丈夫！今日からまた始めましょう。

「今日からこれ実践します」宣言 ～生ゴミ乾かしてみました～

円山方面生活係リーダー 丹羽 淳子

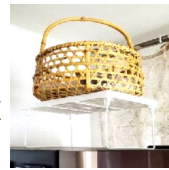
コロナ禍の今、LINEやオンラインで参加できない人も共有できたらと、ふんだんに写真を盛り込んだ方面便りを作りました。「生活の種」と題して昨年度3回発行しました。

昨年対面で持った方面会で、若い会員が子ども達と一緒に「野菜と果物の皮を乾かしてみました」という題で生ゴミを減らすことが、ポリ袋の使用減につながるという自由研究をしたことを発表しました。「思ったより減って凄かった」「はかってみると面白い」など子ども達のカワイイ感想を聞き、そこからの気づきで、コーヒーや茶殻なども乾かしてみようと最寄に広まっていきました。

2月発行の「生活の種」は、冬休みの宿題のプラスチックフリー「今日からこれ実践します」宣言から、実践した人の声を紹介しました。その中から一部を紹介します。

*三角コーナーをやめ、使わないタッパーなどを利用し、台所に乾かす場所を作った。

*冷蔵庫の上の一番乾燥する所にコーヒーフィルターごと籠に入れ、見えないようにしている。冷蔵庫の上は放熱する所なので台に載せた。



*ゴミ箱にビニール袋の利用をやめ、野菜くずは乾かしているので減り、今は大体5Lのゴミ袋で捨てている。



*生ごみは、壊れたザルに入れて乾かしてから、ゴミ袋に入れて捨てる。

大事なことは、まず実践して、続けること。この方法がダメなら違う方法と、皆と共に知恵を出しあったりすることが楽しい実践と研究に繋がらいいなと思っています。

子ども部

子どもと笑顔ですこせるように

子ども部リーダー 浅井裕子

コロナ禍で学校が始まってマスクをしていて会話が思うようにできないなど、大きな声を出して遊べないなど、たくさん制限と我慢の毎日です。そんな子ども達が家庭では安心して心を開き笑顔で過ごしてほしいと願っています。小学生の集まり子ども友の会、2、3才児の親子の集まりこひつじぐみを再開したいと準備しています。

「こひつじぐみ」は一年間のカリキュラムを通じて子ども自身のできる力とやりたい気持ちのばしてほしいとの願いをもった集まりです。今年度は5月26日からのスタートに向け対象(2018年4月2日～2019年4月1日生まれ)の親子を募集します。

友の家を開放し親子で自由に遊ぶ「かるがもひろば」は、十分な注意をして昨年3回でき、近くに住む親子が集まり楽しそうでした。オープンと同時に来たお母さんは「家で子どもとどんな遊びをしたら良いのか悩んでいる」「近くに安心して遊べる場所が少ないので良かった」と話され待っている人がいることを実感しました。今年も会員の見守りの協力を得て、月1回で続けていきます。

幼児生活団

1学期が始まりました

集団係 小野裕子(札幌第二)

4月16日、6才組になった子ども達は、今年度最初の集まりを「集団の日」として円山公園で過ごしました。

「今日から6才組」と久しぶりの生活団が嬉しそうです。「並び順がある」と、自分たちで並び、一緒に集まった弟妹の手をしっかりとつなぎ、小さい人を気遣いながら散歩をしました。池のオシドリ的美丽な姿のため息をつき、ヤチダモの大きな木に登ろうとしたり、北海道神宮への急坂を、地面を探って見つけた木の根や周りの木の枝につかまって登ってみたりと子ども達のやってみたい気持ちがあふれる活動ができました。

お家に帰って昼食後、「皆に会って、崖を登って、ご飯も食べたから、今はとってもいい気分」と子どもが話したと感想をもらいました。集まって活動することの大切さを再確認できました。弟妹も6才組の子ども達の動きをじっと見て真似をするように動いたりと、子ども同士で育ちあう場所の力を感じる時間でした。



方面リーダー抱負

~手をつなぎ 心をつないで~

厚別方面 梁田恵子

札幌友の会創立90周年を迎える今、著作集を中心に「友の会とは何ぞ」を尋ねる一年にしたいと思えます。今は、オンラインでしている方面会も早く対面できることを願いながら、オンラインに参加できない人とも関わりを考えていきたいと思えます。今年は、方面のみんなと共に学び、共に語り、共に成長できる方面にしたいと思えます。

新札幌方面 水野由実

「絶対一人にはさせないから」と、とても心強い声にリーダーを決心しました。その言葉通り何とか私を助けようとしてくれる気持ちがあひひしと伝わり本当に有難いです。この『人のつながり』を大切に、どんな世代でも忙しくても後ろ向きの人でも「友の会ついでいいな、楽しかったな」と思える方面を皆で一緒に作っていききたいと思えます。

平岡方面 小川利恵

集まりたくても集まれない。互いの顔が見えづらい現状。だからこそ、連絡を密に取り合うことでつながりを深め、今まで以上に慕わしい最寄や方面にと願っています。また、方面41名一人ひとりが生活勉強など活発に行い、様々なことに挑戦し、その楽しさや良さを皆で共有し活気ある一年になると今から楽しみにしています。

白石方面 岡本真由美

一番方面に助けてもらえる場所という後押しを信じて皆の力を借りて少しずつ前に進みたいと思えます。

白石方面としては、今年も最寄が大切なのはもちろんですが、つながっていけば支え合えると思信じて、昨年の家計塾を広げて行きたいと思えます。コロナ下でも皆で出来ることを大事にしていこうと思えます。

羊が丘方面 横山成子

今年の方面のテーマは「新しいことへのチャレンジ」です。友の会がどの年代にとっても身近に思えるように、出来ることを精一杯していきます。まずは方面のお便りを出します。互いに奮発する励みになり、元気に過ごしてほしいと思えます。

次に家計簿です。記帳する人

が一人でも増えるように、有職会員に向けて発信していきます。

豊平方面 佐藤真知子

方面の話し合いの中で、私の心に強く響いたことは方面の一人ひとりともっと交わりたいたい、つながりたいという皆からの声でした。

そのためにもオンライン方面会、LINE最寄や最寄通信など、今出来ることを続けながら、今年は更に工夫を重ねて方面の皆と楽しく、慕わしい交わりを広げていきたいと思っています。

西方面 和田紀子

過去の経験に囚われることのないように、いつからでも新しいになれることを信じて進みたい。昨年は、方面の皆と、思うことが出来ない・会えない時間の一年を経験しました。今年は会えた・つながったと言えることが増えるのを願い、思えることを一つずつ実践して行こうと思えます。今まで出来なかった、新たな集まりが出来る楽しさも探して行きたい。

三角山方面 佐々木直子

方面のつながりを大事に、制約がある中でも今出来ることをみんな考えて楽しんでやっていきたいと思えます。自分自身は小学生の子どもがいますので、時間の使い方など訓練の一年に

もなりそうです。まだ直接会えない日が続くかと思いますが、小さなこともそのままにせず、声に出してお互いに分かり合いながら進んでいきたいです。

中央方面 広瀬かずみ

私は友の会の経験も浅く、方面の皆さんに助けて頂きながら一歩一歩進んでいきたいです。昨年は読書や生活勉強もなかなかできない一年でした。方面の新しい人や乳幼児のいる会員はオンラインにつながるのが難しい状況です。新たな関わりを考えつつ、会えなくてもお互いが分かり合える、通じ合える最寄を目指してさらに方面の絆も強めたいです。

円山方面 渡部祥子

活動を通じて、互いをより深く知り、想い合える一年になることを願っています。まちがいを恐れずに“やってみよう”という気持ちを素直に出せる雰囲気や皆と共に作っていききたいです。家計簿が今まで以上に一人ひとりの身近な存在になることを願い、方面での勉強や行き交いを活発にしていきたいです。

山鼻方面 深澤二美

今年のテーマ「友の会の志をつないでいく一人ひとりに」とあります。私は、友の会の奥深さが好きなのだと思います。で

も、志をつないでいく一人に自分になれるのか不安もあります。志をつないでいくためにも、今の時代に合った友の会でなければなりません。どのような未来を目指すのか、方面の方々と一緒に、新しい友の会を考える一年にしたいです。

桜山方面 由利綾子

今方面では、若い人や仕事を始めて友の会を辞めていこうとする人が出てきており、危機感をもっています。

自粛により直接集まるのが難しい今、『仲間のいることの楽しさ』を感じられるには、どうしたら良いか、模索していると思えます。オンラインの集まりや、そこに参加出来ない人も巻き込みながら、一人ひとりに何らかの発信の場を設けて、当事者感をもてる方面になりました。

真駒内方面 門脇ますみ

方面の役に立ちたいという気持ちと行動を大事にして、今年度は皆がつながっている実感を持てる活動、生活勉強などをしていきたいです。各最寄会に参加もしてみたいです。オンラインでの活動も取り入れながら集まれるようになったら皆で手を動かすこともしたいです。信頼と感謝を持って方面のみんなと一緒に歩みたいと思っています。

札幌友の会創立90周年 「最寄と私」



*札幌友の会創立90周年を記念して、2021年1月に74の全最寄と木苺グループから「最寄と私」を寄せてもらいました。(最寄名は、2020年度在籍最寄です) 会報4月号から掲載していきます。

コロナ禍でも出来ることを

厚別方面 こまくさ最寄 梅野 はるみ 50代

私は15年ぶりに友の会に再入会しました。以前と比べて最寄リーダーの担う仕事が多いと感じました。そしてコロナによって新しい組織を決めることが出来ないのが、2年連続の最寄リーダーになりました。児童養護施設で保育士として働いていた時に、まだ自分の気持ちをうまく表現出来ない子ども達がたくさんいました。心のドアを閉ざしている子どもが、見違える程変化し成長していく姿を見ることが出来るのもこの仕事ならではのです。相手の目を見て話すこと、押し付けではなく一緒に体験することを大事にしていました。大人も一緒ではないでしょうか。今はコロナで集まることが出来ません。そんな時友の会ではZOOMを活用することになりました。読書によってお互いの話を聞きあうことが出来て、気持ちが前向きになった人もいます。対面の最寄会の開催はまだ先です。コロナだから仕方がないではなく、コロナでも出来ることを考えましょう。

友の会と私

新札幌方面 白樺最寄 坂下 美代子 90代

70年前、結婚した翌年に女学校の同級生だった柴田洋子さん(後に北海道部の中央委員)に誘われ、小樽友の会に入会しました。

女学校時代「東京の自由学園は制服がなく自由だそう」と言う隣席の洋子さんの話はとても印象的でした。

友の会は、例会、生産、洋裁、料理、お茶などすべてが勉強の場でした。特に青年班の育つ場で、クリスマス前には沢山のケーキの注文を受け、手動の泡立て器で作っていた音を思い出します。私も自分で作れるのが嬉しかったです。息子の誕生会には大量の肉まんを作り、子ども達が満足した顔を思い出します。

予算立ては経験者が相談に乗ってくれて、収入不足の場合は友の会の中での働きで生活できる様に助言してもらい、私も生活団と友の家を管理をしながら住まわせてもらいました。

その後札幌の娘一家と同居し、札幌友の会に移りました。札幌では沢山の方と出会う機会に恵まれ、楽しい友の会生活を送ることができました。今後はわずかな力でも何かお役に立てればと願っています。

最寄講習会

平岡方面 ミモザ最寄 深沢 京子 60代

方面編成をして2年目に大がかりな最寄編成があり、ミモザ最寄として10人でスタートしました。途中一人退会者がありとても残念でした。今は50代から90代の壮高年9人で頑張っています。私は最寄講習会をすることが当たり前になっていたの、新しい最寄でもしようと思っていました。他の人は考えていなかった様でしたが「やろうよ」の声かけで心が動いてくれ、有職者でなかなか最寄にも参加出来ない小野さんも協力してくれ、私と2人で実習に立ちました。他の人も裏方としてそれぞれ頑張ったおかげで、お客様にも喜んでもらった講習会になりました。やって良かったと皆で喜ぶことが出来、2年目も講習会することが出来、今年は何んな講習会にするか楽しみにしていたのに、コロナで最寄も方面も活動自粛で皆で一緒に勉強出来ず、なんだか心が折れてしまいました。皆でお互い刺激し合いながら勉強することがいかに大切な時間だったと実感しました。最寄は良く家族みたいなものと言われますがそれも実感しました。今は離れ離れですが、また皆と一緒に楽しく充実出来る日が、早く戻って来ることを願っています。

エネルギーの補給

白石方面 アイリス最寄

武田 摩耶子 40代

平日フルタイムで仕事をしている私が、最寄のみなさんと顔を合わせるの、1年に1回か2回。本来はお休みである夏休みと冬休みに、わざわざ集まっていたいただいて感謝である。その時に家計簿を見てもらう。近況を報告し合い、調理や包丁の研ぎ方などの実習を通して1つ技術を学ぶ。そして、みんなでおいしいご飯を食べる。たった2、3時間。でも、ここで1年分のエネルギーを補給する。帰り道「また、がんばろう！」と思う自分がある。普段はあまりの忙しさに部屋が乱れたり、外食が増えたりすることが多々ある。そんな時、最寄のみなさんの顔が浮かんでくる。「家計に底をつけないと」「忙しい時は外食したっていいよ」私の事情をふまえたアドバイスや、会報に添えられた温かいメッセージ。理想と現実のギャップに苦しみつつも何とか続けていられるのは「よりよい生活を目指す仲間がいる」「会えなくてもつながっている」と実感できる最寄のみなさんのおかげである。いつか恩返しできるように毎日を大切に過ごしていきたい。

最寄は家族

羊が丘方面 清田最寄

進藤 孝子 70代

最寄は私にとって第二の家族です。清田に転入して40年、10年間休んでいた時期もありましたが、最寄の人達が辛抱強く待っていてくれたおかげで、今まで続けてこられました。少しでもお返しをしなければと思いながら最寄リーダーをさせていただいています。

ウィズコロナの中、自宅にこもりながらもなんとか元気でいられるのも近くに、最寄の人達がいてくれて、刺激をもらいながら生活出来るおかげです。

2018年の地震の時には、自宅が被害を受けながらも最寄の人達の安否確認に走りまわってくれたり、私の夫が入院中は泊まり込んでいた私の為に、度々お弁当を届けてくれたり、みなさんの温かさは思い出だけで胸があつくなります。

やっぱり最寄は第二の家族です。

最寄との新しい関わり

豊平方面 望月寒最寄 高橋 智子 40代

昨年ほど、家族3人一緒に過ごした時間が長く、健康のありがたみや人とのつながりがうれしく思った年は、ありませんでした。

3月に入り小学校の休校と夫の在宅勤務が始まってから、家での生活に工夫せざるを得ない状況が長く続きました。その中で心の励みになったのは今までの友の会での出会いや活動、学んだ多くのことでした。友の会の方達ならどうするのだろうかと考えながら、日々過ごしていくうちに、工夫が楽しみになり休校期間中は全て違うメニューで食事を出すことが目標となりました。

暖かい気候になると、公園での最寄も行われ、グループラインでも新たにつながり、最寄の方々と新しい関わり方ができたのも昨年ならではでした。

お会いする機会は激減しましたが、私の心の中では、最寄で勉強したことを最も活かした一年が、昨年だったのではと思っています。

新鮮な気づき

西方面 発寒最寄 牧野 美津子 70代

40年程前、入会時の最寄は、新米の主婦が多く、子育てのことなど相談できる私にとってはなくてはならない、勉強の場所でした。

時を経て、時代の変化とともに、変わってきたのは、若い人たちが、仕事を持ったり、他の用事で、なかなか最寄に参加する時間が、なくなってきたことです。

私の最寄でも、若い人たちと顔を合わせることが出来るのは、年に数回しかありません。皆に会うことが出来たら、どんなにか読書も充実し、楽しい時間になるでしょう。

そして、若い人達が参加する時に、新鮮な気づきをいただくこともあります。

「モヤシは、袋に水を注いで、口を絞って水切りをすると便利」（ほんと楽！早く知っていた）「夏の暑い時期は、お風呂の温度を下げて大丈夫で、節約になりました」（エッ？そんなこと考えてもみなかった。ナルホドネエ）

年を重ねると、生活に不便を感じることもなく漫然と日々を送りがちな、私です。

真剣な生活の中から生まれたアイデアを直接伝えていただけるのは、友の会会員の特権でもあると思うのです。

心強かった著作集の言葉

三角山方面 桜最寄 伊藤 幸子 60代

緊急事態宣言で外出自粛の中、有職の私は、職場に自分が感染を広げるのではないかと、恐怖を感じました。その時に、友の新聞4月号 みどりごの心 「人の世の悲しみ」より『我々はまずここに度胸を据えましょう。世の中のありとあらゆる悲しみを皆でたしかに分担しましょう』この言葉で落ち着こうと思いました。職場に、友の会で購入したピューラックスを持参して消毒掃除をする日々が続いています。

最寄会は場所、人数分散のため2部に分けるなど工夫を重ねていただきながら、久しぶりにお会いして緊張がほぐれました。家では、鍋帽子料理が定番となり、方面で勉強したケーキが最寄や奉仕、家族にも届けることにつながり喜びです。今は、会報、婦人之友をしっかりと読む時間を大切にしたいと思います。最寄会で皆と、同じ著作集を読むつながりを大切に、励まされ、活動できることを願っています。

つながりが心の支えに

中央方面 桑園最寄 相原 則子 80代

私が住む地域は札幌開拓時に、山形から入植した人々が桑を植えたことからこの名があります。当時、一戸あたりの区割りが広がったとか、そのせいか近年マンションが建設され、人口が急増しています。

最寄も転入者や新入会員があつて多人数になっています。でも有職者も多く普段の最寄には常時6人が出席しています。

私は、最寄の読書を大切に思っています。年代も経験も違う人達が自分の思いを心から出し合い、信頼が深まります。

生活勉強では、調理実習などは、帰ってからすぐ自分で繰り返しやってみるようになっています。

最近では新型コロナのために、集まって顔を合わせる事が出来なくなり残念でさびしいです。

年をとり体だけでなく精神的にもおとろえて家にとじこもりがちの生活になってきました。

最寄リーダーや友の会の人達が手紙や電話などをくださったり、わざわざ会報を届けて声かけをしていただき元気をもらっております。

活動もオンライン化がふえて少しずつでもデジタル化についていく勉強をしなければと思っています。

友の会の皆に助けられて

木苺グループ 五味 世津子 50代

今年の春、母が膵臓がんの終末期を宣告されたとき、話を聞いてほしくて自分から連絡した友人は幼なじみでもなく、学生時代の友達でもなく、青年班の友人でした。「友の会」という共通点で誰とでもすぐに心を許してしまうのは昔から不思議でしたが、それは生活を大事にしたい、仲間とともによりよく生きたいという思いが同じだからで、そのころの私は無意識のうちに「友の会」を求めているのだと思います。その友人は他の会員の方々にも知らせてくれて、葬儀の際も、実家の片づけや日々のご飯の心配まで、私は友の会の皆さまに助けられ、教えられ、今年一年を何とか無事に終えることができそうです。親戚も友人も何くれとなく気を遣ってくれて、人とのつながりを一層感じる年でもありましたが、友の会はまた少し特別な存在です。若い頃会員だった母が以前私が友の会に入っているから安心だと言っていたことを思い出します。これからの友の会に対しては世界が混乱している今こそ友の会の知恵に救われる人が多いと思うので、もう少し世間にアピールしてもいいのかなと思っています。